

特活の達人!

～「学級会」の巻～

オリエンテーションを大切にして、
自治的な話し合い活動を実現しよう!

「特活の達人」は、
第8号からスタートした
「達人シリーズ」です。
達人と言われる先生に、
座談会でお伺いした内容を
記事にしています。

特に、年度初めが
肝心ですね。



7	6	5	4	月			
学級をつくる							
★ 一学期のふり返り	★学級目標を決定 ●学級目標の掲示 ●学級の歌や旗の作成 ●学級のルールを決める		(四週目) 学級目標について考え始める (三週目) 学級会のオリエンテーション ●学級会コーナールの整備 ●司会グループの決定・掲示	(二週目) 始業式・学級開き ●活動計画の作成 ●学級会コーナールの掲示物点検 ●議題用紙、学級会ノートの準備	(一週目) 学級開きの準備 ●学級会グッズの点検	内容	一年間の流れ

オリエンテーションの進め方

これらのことは年度初めに確認しておきましょう。

③ 集団決定の仕方

【決定にあたってのチェックポイント】

- 安易に多数決に頼ろうとしていないか。
- 少数意見が大切にされているか。
- 選択内容(選択肢)が明確になり、クラス全員が理解できているか。
- 決定の方法を全員が納得しているか。



学級会で決まったことについては、「自分の意に沿わなかったとしても、必ず協力して取り組む」ように、確認しておきたいですね。

② 学級会の進め方

- ① まず「何を」話し合うかを定める。
- ② 次に「どう」進めるかを定める。
- ③ そのための役割(係)を分担する。



①で決まったものに対して、
どうやり方を工夫するかという
②が大事なんです。

学級会を始めるにあたっては、次のポイントを確認しておきましょう。

- クラス全員で話し合いたい議題になっているか。
- 見通しがもてているか。
- 解決への期待がもてるか。



① 学級会とは何か?

【どんな時間か】

- 先生の力を借りず、自分たちだけで話し合う時間。
- クラス全員で準備して、クラス全員で実践する時間。

【何のために行うか】

- 自分たちの力でよりよい学級生活を築くため。

【どんな目的で行うか】

- 相手の意見を尊重する態度を身につける。
- 望ましい人間関係を築く力を高める。

学級会ノート(カード)等

ふり返りの欄を設け、自分や友達のよさや成長に気づき、自信をもたせるようにする。

司会グループのプレート

司会

司会

黒板記録

黒板記録

ノート記録

黒板掲示用の短冊

これらを用意しておく
と、効率がいいですよ。

達人直伝!
学級会グッズ
大公開!!



3 自治的範囲を超えたら

- お金に関すること
- 健康・安全に関すること
- 人権に関すること
- 教育課程の変更に関すること
- 校内のルール・施設設備の利用に関すること

【例】



入院した友達のお見舞いに、お金を出し合って花束を買ってほしいという気持ちは分かるけれど、それはやめましょう。

2 共有したい価値の確認

- 質の高い発言ができた。
- 少数意見でも、勇気をもって発言する姿勢が見られた。
- 折り合いをつけようとしていた。
- 進行に協力した。

【例】



ドッジボールをやりたいかったのに、「今回はサッカーでいい。」と言えたA君の発言は、とても立派だと思いました。

1 終末の子どもへの助言

- 前回と比べてよかったこと
- 決定したことのクラス全体への賞賛
- 司会グループをはじめ、分担した役割へのねぎらい
- 次回に向けての課題提示や意欲づけ

【例】



司会グループは十分な準備ができていました。記録係のおかげで、次の学級会につながるテーマが整理できましたね。

ここが
教師の出番だ!

話し合いが混乱したときはもちろんですが、こんなときも出番ですね。



3	2	1	12	11	10	9
学級をまとめる			学級を高める			
<ul style="list-style-type: none"> ★ 一年間のふり返り ● 達成感を味わう活動 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 学級以外にも目を向け、学級集団をまとめる ● 見通しをもった活動 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 学級目標の確認や、達成に向けての活動計画の再立案 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 二期のふり返り ● 成長を認め合う活動 	<ul style="list-style-type: none"> ★ いろいろな行事や係活動 ● 学級を高めるための新たな目標づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 学級目標の確認や見直し ● 二期の活動の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動計画の修正や立て直し

ベテラン先生のひと言アドバイス



例示したり、視点を示したりしましょう。

- みんなでやりたいこと
- 学級生活がよくなること
- 困っていることやお願い

議題箱(ポスト)

を設置したものの、なかなか議題が入りません。



基本的には、輪番制でよいと思います。得意な子から始めて、苦手な子でも盛り上げるような助け合いの雰囲気をつくりたいですね。

どの子どもにもひと通りの役割を経験させたいのですが……。



優先順位をつけましょう。

- クラス全体に関わるか。
- 子どもたちが自力で解決できるか。
- 即効性があるか。

価値のあるテーマ(柱)を明確にしたいとは思いますが……。



学級会までの一週間の流れ

(例：木曜日が学級会の場合)

	計画委員会から学級へ (朝の会・帰りの会など)	計画委員会【司会グループ】 (休み時間・放課後など)
月	議題集め (ポスト、朝・帰りの会⇒先生へ)	議題整理 (計画委員会の案)
火	議題選び⇒議題の決定 (学級全員)	役割分担 活動計画の作成
水	活動計画の予告 (学級会ノートの配布・記入)	学級会の準備 (活動計画の確認と修正(板書など))
木	学級会(話し合い)	学級会の反省
金	決まったことを整理して実行する。 新たな議題出しの呼びかけをする。	

座談会参加先生の「学級会」よもやま話

先生と計画委員会の関わり

学級会について相談する時間が取れないので、その週の司会グループと一緒に給食をとっています。短い時間の中でもきちんと打ち合わせをして、司会グループに任せるようにします。

うなすきや微笑みは「評価」になるので注意!

子どもたちは先生の表情をよく見ています。ある発言に気づかぬうちにうなすいたり微笑んだりすると、子どもは評価されたかと思ってしまうので要注意です。



「お楽しみ会」を議題にしたときの落とし穴

単にお楽しみ会といっても、中身を限定しないで話し合いを始めてしまうと、提案者とみんなのイメージが合わなかったり、その時間に体育館等の施設が使えなかったりします。内容を決め、条件を整理して進めましょう。

低学年の「みんなで遊んだ!」の落とし穴

低学年の場合、グループ別に違う遊びで遊んでいても、「みんなで遊んだ」となってしまう。「クラス全体で遊ぶ」この意味に気づかせてから、実践に移るようにしないといけない場合がありますね。